

ラリー・ニーヴン&ジェリー
・ パーネル『神の目の小さな塵
』下巻のメモ

takaidos

ラリー・ニーヴン&ジェリー・パーネル。
1974年発行。

モート人はグレムリンのような存在。
映画のグレムリンはこちらのを参考にしているのか？

ニーヴンは奇想家、パーネルは政治・軍事に詳しいようで描かれていることの大部分はパーネルによって描かれたのではないかと思われる。

第3部は3人の士官候補生たちの冒険譚。
モート星に不時着した3人の若い士官候補生の運命は、23万語あった原稿から出版社希望で6万語削られたときに、変わってしまったのか？

第4部「戦略会議」は秀逸。
この辺は政治・外交・軍事通のパーネルがリアルになるように書き綴ったのではないか？
マッカーサー号を失ったロッドの様子・心境やクトーゾフの気の配り方などがうまく描かれている。

<目次>

第3部クレイジー・エディの対面

26. モート母星

27. 名所めぐり

28. コーヒー談義

29. 時計師(ウォッチメーカー)

30. 悪夢

31. 敗走

32. レーニン号

33. 惑星降下

34. 侵入者

35. 走れウサギ

36. 判断

37. 歴史の教訓

38. 最終的解決

第4部クレイジー・エディ 解答

39. 出発

40. 別れ

41. ギフト・シップ
 42. 割れたグラス
 43. 豪商の嘆き
 44. 戦略会議
 45. クレイジー・エディ・ジャンプ
 46. 私用至急報
 47. 帰還
 48. 退役
 49. パレード
 50. 交渉の技術
 51. 宴のあと
 52. 選択
 53. 魔神
 54. 解放
 55. レナーの切札
 56. 最後の希望
 57. 裏切りすべて
 58. 馬の歌う日
- エピローグ

<登場人物>

ワイズ:モート主星降下の応募兵。テーブルトップ出身。
ジャクスン:モート主星降下の応募兵。

ホルスト・ステイリー:マッカーサー号士官候補生。サウロン出身。
モート母星に不時着。

ジョナサン・ホイットブレッド:マッカーサー号士官候補生。17歳。
モート母星に不時着。

ギャヴィン・ポッター:士官候補生。16歳。ニュー・スコットランド
の街クウェンティンズ・パッチ出身。長身。モート母星に不時着。

ラファティ:モート人宇宙船に接触しに行ったときの艇長。

クラブマン:マッカーサー号から脱出のときに一般人を誘導した士官候補生。

ヤノヴィッツ:マッカーサー号から脱出のときに一般人を誘導した士官候補生。

ミハイロフ艦長:レーニン号の艦長。

ジョージ・アレクシス:レーニン号の従軍神父。

ボーマン大佐:レーニン号のクトゥーフの副官、参謀長。

デ・ヴァンダリア:地質学者。マッカーサー号に乗っていて、モート母星にも派遣された？

ロッド・ブレイン:マッカーサー号艦長→退役→モート人との交渉に

あたる特別委員。のちクルーシス侯爵。サリーと結婚。貴族。クルーシスの跡取り。皇帝の遠戚。

サンドラ・ブライト・ファウラー嬢:ファウラー上院議員の姪御。サリー。人類学博士課程専攻。未開文明。→モート人との交渉にあたる特別委員。ロッドと結婚。

ベンジャミン・ブライト・ファウラー:一代で上院議員になった。貴族。サリーの叔父。→モート人との交渉にあたる特別委員会議長。80歳。太っている。

アンソニー・ホーヴァート博士:トランス・コールサック星域科学技術庁長官。

ミス・マクパーソン:サリーの新しい秘書。美脚。

アクリー・ケリー:帝国海兵隊掌砲長。特務曹長。ブレイン家の忠臣。

ジョン・カーギル:帝国宇宙海軍中佐。マッカーサー号副長。

ジョック(サンディ)・シンクレア:帝国宇宙海軍中佐。マッカーサー号機関長。40代。軍歴24年。

ケヴィン・レナー:マッカーサー号航海長。帝国宇宙海軍予備役中尉。元・星間商船の航海長。優秀。

シグマンド・ホロヴィッツ博士:ニュー・スコットランド大学教授。宇宙生物学者。

ハーバート・コルヴィン:元ユニオン共和国宇宙軍大佐。デファイアント号艦長。

☒☒モート人～モート人は25年しか生きられない。

ミディエーター:茶と白の縞模様。雑種。外交・意思決定。突然変異で増えた雑種。子供は産めない。

マスター:白全身白一色。権力者たち。

エンジニア:茶褐色。女性有的时候に子供を産み、男性になる。

ポーター(強力)/ワーカー(労働者):体長3m。

医学博士:赤毛。

ウォッチメイカー:ミニチュア・モートのこと。ブラウニー(小人)。

モートの工作隊・尖兵だった。繁殖力が非常に高い。

キーパー:戦士階級。

ホイットブレッド担当のモート人:人類の生存域に土地を買い、増えたモート人を植民することによって人口増加問題を解決しようと考えている。

キング・ピーター:モート人を他の星域に植民する考えに賛同しないマスター。3人の士官候補生を人間に無事に返そうとした。人類の到来をパンドラの箱と考える。

チャーリー:キング・ピーターの配下。のちレーニン号に乗る?モート圏拡張反対派のマスター”キング・ピーター”を持つ。
ジョック:ミディエイターとしてレーニン号に乗る。茶と白。シンクレア担当だった。モート圏拡張派のマスターを持つ。
イワン:全身白一色。マスター。人類帝国へ派遣された大使。

ITA:帝国貿易業者協会。
ヒューマニティー・リーグ。

<あらすじ>

人類代表一行はモート母星に降下し、城のように造られた宿泊所、美術館、博物館に案内される。
途中、これまでで初めて見るタイプのモート人(労働者や医学博士)を観たり、白色のマスターの家や農園領主の家にも案内してもらう。

豪商ベリーは自分付きのモート人と商売の話をする。
ワイン、コーヒーなど。

ロッドは一行から艦長室で見学・調査の状況を聞く。
サリーはモートの都市の下にはもっと進んだ文明の跡があるようだという。
ロッドは地質学者を派遣し、軍の代表として引き続きレナーを付け緊急時には意思決定を任せる。

コーヒー・メーカーが改良されていることのが見つかる。
全滅させたと信じていたミニチュアがまだ生きていた。

ロッドは再びミニチュア駆除を命令する。
しかしミニチュアは夥しい数に増えて潜んでいて反撃して来る。
ロッドはモート母星に調査に出ているメンバーにレーニン号から来るカッターに乗るように指示する。
一方艦内では海兵隊にミニチュア掃討と一般人を宇宙艇への移乗を指示する。
レナーにはハーディ神父らの連れ戻し、ステイリー、ホイットブレット、ポッターにはマッカーサー号に戻って一般人救助支援、ミニチュアの改造品接收と魚雷による自爆設定を命令する。
マッカーサー号はミニチュアに改造されて占領されてしまっていた。

一般人、海兵隊、ロッドはマッカーサーからレーニン号へ退却。
ステイリー、ホイットブレット、ポッターは救命ボートに乗ったがこれもすでに改造されていて、3人はモート母星に不時着する。
レーニン号艦長クトゥーフに連絡しマッカーサー号を放棄、自爆させると連絡。

しかし時限装置は動かず、レーニン号はレーザー照射と魚雷でマッカーサー号をミニチュアごとやっつと沈める。

モート母星に着陸したホイットブレッドとポッターは銀色の博物館に入る。

博物館の中では過去のさかざまな戦争の跡を見る事が出来た。

平和に見えたモート人も戦争をして来たことを知る。

ステイリーは上空を通った飛行機に手を振って、乗っていた”ホイットブレッドのモート人”と人類との貿易を望むキング・ピーターに仕えるモート人チャーリーとエンジニア(茶褐色)に拾われ、いっしょに博物館に行く。

モート人は不時着した3人の士官候補生たちには死刑が宣告されているので、反対派のキング・ピーターのもとへ行って保護してもらおうべきという。

移動中、3人はモート人からこれまでの周期的な歴史と現在のモート人同士の争い(植民地づくりvs母星で歴史を繰り返す)のことを聞く。

。

モート人は男で生まれて女になり子供を産み、また男に戻るということを繰り返す。

非常に高い繁殖力を持っていて、何度も戦争が発生した。

そのうちに古い技術も博物館に保存しておくようにして、戦争後に社会が荒廃しても博物館に保存してある水素核融合技術から再出発できるようになっていた。

博物館から昔の武器を調達し地下鉄で接近するモート兵たちを倒し、街のそばまで地下鉄で進み、途中で降りる。

飛行場で飛行機を接收し、着陸予定地でモート人同士の戦争が始まってしまったので、ふたたび人類用に用意されていた城に入る。

両軍戦士たちが迫って来るが、ついにホイットブレッドのモート人のマスター(モートの銀河系進出推進派)が勝ち、3人の士官候補生は城内で殺されてしまう。

レーニン号は帝国に帰還すべくジャンプ・ポイントに向かう。

ホーバートがモート人に通信で別れの挨拶をするとモート人は3人のモート人を乗せたギフト・シップを送って来る。

人類の帝国に連れて行って通商条約のことについて話し合わせてくれ、という。

人類の調査隊はモート系に来て10ヶ月の月日が経過していた。

ニュー・スコットランドに帰還。

3人のモート人に歓迎パレードを見せたあと特別委員会はモート人たちと今後の人類対モートの関係について話し合う。

サリーとホーバートはモート人たちが平和的と主張する。
会議ではモート人の希望するように帝国の辺境の惑星をモート人に貸して、環境改善をしてもらい、またそこで宇宙船の製造もしてもらう方向で進みかける。

モート人の歴史と繁殖形態に疑義が差し挟まれる。
モート人は小惑星を一箇所に集めて住むなど高い文明に達していながら、人口爆発に伴う末期的な戦争を繰り返して来た。そして左右非対称の突然変異も生まれて来た。
核戦争後には放射線汚染でモート人の階層化も起きた。
褐色がおそらくモート人の原形。

交渉の選択肢。

1. モートに帝国の領域に恒久基地を設置を認め、未開の惑星の植民地化を認める。

→帝国内反乱分子がモート人と提携すると厄介なので、その他モート人の要求を大幅に認める。サリーとホーヴァートが支持。

2. モート人を帝国に併呑すること。

モートの植民地やモート母星に人類の総督を置き、監視する。

→モート人が反乱を起こしたら対応が難しい。

3. 鷲口瘡に対するに鷲口瘡の薬をもってすること。モート人を殲滅すること。

→なんの理由もなく絶滅させるのは政治的に難しい。

レナーが撮影したいろいろな種類のモート人の画像を出して戦士階級の存在を暴露すると、特別委員会はモート人の言うことを信用出来なくなる。

モート人の外交使節はジョックがリードしてモート人に有利な通商条約を結ぼうとしていたが、人類側の態度が一変。

モート母星と小惑星帯が破壊される前に、モート側から提案されたジャンプ・ポイント(クレイジーエディ・ポイント)封鎖作戦を受け入れる。

人類について知り過ぎた3人のモート人は人類帝国に死ぬまで軟禁されることになった。

寿命は25年ほどで残り10年。

クトーゾフ、カーギル、シンクレア、ハーヴ・コルヴィンはモート封鎖作戦のため、ジャンプ・ポイントの周辺宙域の警備に行く。

<メモ>

映画『グレムリン』のWikipedia。

「ジョージ・ガイプによるノベライズ版（訳：浅倉久志）によると、グレムリンは外宇宙より飛来した存在＝宇宙人であるという設定であり、ギズモは劇中でのグレムリンのような悪意への衝動を理性によって抑え込んでいるという描写がある。」

☒☒恒星/惑星

エカテリナ:帝国を狂信する惑星。ロシア系？レーニン号のほとんどの船員を占める。

サウロン:以前、帝国に反旗を翻した。数千のサイボーグで帝国軍を手こずらせた。

☒☒用語など

「皇帝のミディエーターは立体カメラのオペレーターたちを嫌っています。それなのに

彼はオペレーターたちに向かっていかにも愛想よく振る舞いました。彼らが私たちにつきまとうとするのをどうすることもできないとでもというような態度を見せていました」